様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ６ 月 １６ 日現在

機関番号：３４３１１
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2011～2013
課題番号：２３５３０８３４

研究課題名（和文）痩身モデルが痩身願望におよぼす社会心理学的影響―社会的比較理論の導入―

研究課題名（英文）Social Psychological Influences of Thinness Model on Drive for Thinness: Introducing Social Comparison Process

研究代表者
諸井　克英（MOROI, Katsuhide）

同志社女子大学・生活科学部・教授

研究者番号：８０１８２２８６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　2,000,000円、（間接経費）　600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の主目的は，痩身願望を支える心理学メカニズムの解明にあった。とりわけ社会的比較の観点から研究を立案・実施した。女子大学生を対象とした一連の研究によって，「対同性同輩比較→痩身理想像内在化→痩身願望」という影響経路が一貫して認められた(守安ら，2011; 2012など)。また，次のことも明らかになった。①身近な他者のうち親友との体型比較が最も影響力をもつ(守安ら,2012)，②身体全体よりも顔部位の比較が重要となる可能性がある(諸井,2014印刷中)。今後の研究の方向として，体型比較の文化的意味をさらに実証的に検討する必要があることが明らかになった。

研究成果の概要（英文）：The present study examined the psychological mechanism underling drive for thinness. Various scales measuring social comparison of body size were administered to female adolescents. Consistently in several studies, the relationship between comparison with same-sex peers and drive for thinness was mediated by thin-ideal internalization. Furthermore, drive for thinness among female adolescents was influenced by comparisons with same-sex peers more than the closest same-sex friend, their mother, or the elder sister. Also, the global comparison of body size with that of same-sex peers represented face-part comparison. The significance of this research was discussed from the point of view of face phenomenology.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：心理学・社会心理学

キーワード：痩身願望　社会的比較　比較他者　女子青年　社会的比較志向性　痩身理想像内在化

１．研究開始当初の背景

わが国では，食行動や痩身性に関わる不全症状を対象にした研究は臨床心理学的枠組みを中心として盛んに行われている(和田・諸井, 2003, 参照)。近年，痩身願望などを中心として健常者を対象とした実証的研究も試みられるようになった(松本・熊野・坂野, 1997; 馬場・菅原, 2000 など)。

２．研究の目的

Thompson et al.(1999) は，美に関する社会的基準の重要性を説く社会文化理論に基づき，米国社会では痩身が美と同義語になっていることを指摘した。つまり，女性の痩身性に価値がおかれる社会や文化の下では，様々な仕方で痩身圧力に曝されることになる。たとえば，諸井・小切間(2008)は，女子大学生を対象として，①痩身体型やダイエットに関する雑誌記事の日常的影響や，②メディアに登場する痩身モデルの理想化が痩身願望を高めることを示した。一連の研究では，社会的比較の観点から痩身圧力のメカニズムを明らかにする。

Festinger(1954)は，次のことを骨格とする社会的比較理論を提起した。①人は自分の意見や能力を評価しようとする欲求をもつ。②比較のための客観的基準がない場合には，他者との社会的比較が必要となる。③社会的比較は，類似した他者を対象として行われる。つまり，他者との比較は，自分の中の不確かさを明確にするという働きをもつ。なお，Gibbons & Buunk(1999)は，社会的比較における個人差を測定するための測度 Iowa-Netherlands 比較志向性測度を開発した。11 項目から成るこの尺度に関する因子分析によって，能力比較因子と意見比較因子が抽出された。しかし，Gibbons & Buunk は，①単一因子構造が十分にデータに適合する，②抽出された 2 因子間の相関がかなり高い，③能力比較や意見比較は自己理解促進のための他者からの情報収集である，という点から，11 項目を単一次元尺度として扱うことを推奨した。

社会的比較理論に基づくと，諸井・小切間(2008)による研究はメディアにより呈示される痩身イメージ(あるいは実モデル)との比較を扱ったといえる。また，雑誌などのメディア媒体に呈示された痩身モデルの影響に関しては多くの研究が行われており，Groesz, Levine, & Murnen(2001)はメタ分析を試みている。痩身モデルの影響は，Thompson & Stice(2001)によれば，「痩身モデルの内在化」によって引き起こされる。つまり，魅力に関する社会的基準として痩身性の心理的取り込みが重要なのである。

Stice et al.(1996)は，理想的身体ステレオタイプを内在化している程度を測定するために，10 項目から成る理想身体内在化尺度(Ideal Body Internaization Scale)を開発した。Stice らは，女子高校生・大学生を対象とした調査で，精神疾患診断基準(DSM-Ⅲ-R)によって判定された神経性大食症者が健常者に比べて高い理想像を内在化させていることを見出した。

一連の研究では，諸井・小切間(2008)での知見を発展させる。痩身に関する社会的圧力は，メディアだけでなく，日常の対人関係の中でも生じるはずである。例えば，Thompson, Heinberg, & Tantleff(1991)は，社会的場面で，自分の外見を他者と比較する傾向の個人差を測定する 5 項目尺度を作成した。この測度は，身体イメージ不満足や摂食障害と強く関連があった。つまり，種々のメディアに登場するモデルとの比較だけでなく，日常生活で接触する同輩との外見比較も痩身願望の喚起にとって重要と思われる。

３．研究の方法

女子大学生を対象とした一連の質問紙研究を 3 年間にわたって実施した。目的変数である痩身願望の測定に加え，①種々の比較他者との体型に関す比較，②体型比較と詳細部位比較などの測定が行われた。

４．研究成果

女子大学生を対象とした一連の研究によって，「対同性同輩比較→痩身理想像内在化→痩身願望」という影響経路が一貫して認められた。また，①身近な比較他者，および②身体の詳細部位比較に関する種々の知見も得られた。

(1)身近な比較他者

回答者の身近な比較モデルとして同性親友，母親，および女性きょうだいと外見比較をどの程度行っているかを測定し，身近さという観点から同性の親友や家族内の同性(母親や女性きょうだい)との外見比較の相対的重要性を検討した。重回帰分析や共分散構造分析の結果に基づくと，最も親しい同性の友だちとの外見比較は，痩身願望に対する直接的影響を示したが，痩身理想像内在化の仲介的影響はなかった。この結果に関しては，次の 2 つの解釈が可能である。同性親友はより身近な存在であり，通常は双方向的な好意によって成立している。この場合には，互いの外見上の差異は競争的な意味をもたず，許容されがちであるはずである。そのため，回答者の痩身理想像内在化の形成・維持にも寄与しない。2 つめの解釈は以下の通りである。ここでの同性親友は回答者が同定した１人の人物である。他方，メディア・女性モデルや大学同輩は回答者が日常的接触する個別人物から自分にとって顕在的である複数の人物から構成(=イメージ)されるはずである。このために，ここでのメディア・女性モデルや同性同輩比較はいわば複合比較であり，痩身願望に全体的に影響をもつし，痩身理想像の内在化にとっても有益な情報となる。

興味深いことに，母親との比較は家族内に回答者に女性きょうだいが存在するときには痩身願望を高めるが，女性きょうだいがいない場合には痩身願望に対する影響が消失する。この研究では身近さという観点から家

族内比較を導入したが，今回の結果は痩身願望に対する家族内比較の影響は基本的には低いことを示唆する。これは，本研究の回答者が青年期に位置することを考慮すると，対人関係の中心が親から同輩関係に移行することと関連するかもしれない(諸井，2002)。しかしながら，母親と女性きょうだいの併存によって母親の比較が相対的に強まることは対比効果と未来比較によって解釈できる。年齢の点からは女性きょうだいのほうが類似性が高いので対比効果のみであれば対母親比較の顕在化は生じない。母親との外見比較はいわば未来の自分自身との比較を含意する。母親と女性きょうだいの併存が対比効果を引き起こし，未来比較を強めるのかもしれない。

(2)身体の詳細部位比較

これまでの研究で痩身願望の影響因として認められた「対同性同輩比較(回答者と同じ大学に通学する女子学生との体型比較)」が身体全体の比較を指すのか，身体の特定部位比較の反映であるかを明らかにすることであった。

このために，回答者に詳細な身体部位比較と部位全体の比較(単一項目評定)を求めた。詳細な部位比較については因子分析の結果に基づいて下位尺度を構成した。一連の重回帰分析は，次のことを示した。「容姿」，「体つき」，「装い」，「外見」，「体型」という言葉を用いて測定した対同性同輩比較は，実は「顔部位」の比較にかなり依存していた。対同性比較尺度の作成意図は，身体全体の比較の測定であった。下位尺度得点を対象とした分析(分析Ⅲ)では，「身体全体」比較の影響力は 「Ⅰ．顔全体・胸」比較とほぼ同等でしかなく，単一項目評定による分析では(分析Ⅳ)「身体全体」の影響は認められなかった。

これらの結果は，「容姿」，「体つき」，「装い」，「外見」，「体型」という言葉を用いて同輩の女子学生との比較を求めると，回答者は自分自身と同輩の女子学生の「顔部位」の様相を思い浮かべながら回答していることを示している。これは，日常の相互作用場面の仕方によると考えられる。親友など親しく交流している他者とは，「顔部位」以外の部位の観察をしたり，その部位に関するコミュニケーションを交わす可能性がある。しかし，同じ大学に通学する女子学生とは，通学時や授業時に観察するのは「顔」を中心とした部分であろうし，身体情報の交換はあまりないと思われる。

以上のように解釈すると，「親友」を比較他者とした場合には(守安・諸井，2012)，同輩の女子学生を比較他者とした結果と異なり，「顔部位」比較の優位性が緩和されるはずである。今後，このことを確認する必要があるだろう。

また，身体の詳細な比較は，①「自分の通学している大学の女子学生」との比較，②比較対象が身体という点から，他者との一般的な比較傾向を表す社会的比較志向性よりも，対同性同輩比較と強い関連を示すはずである。しかしながら，単一評定項目ではこの予測が支持されたが，下位尺度得点で分析した場合には支持されなかった。さらに，平均値比較で，2 種類の得点ともに(単一評定項目「脚全体」，下位尺度得点「Ⅲ．腿」)，脚部は最も比較対象とされる部位であった。この部位は，重回帰分析においても対同性同輩比較の有意な規定因であった。以上の結果についても今後精緻に検討すべきであろう。

社会心理学分野における顔に関する研究は，人のもつ特性間の結びつきに関する信念体系が一般に人々によって抱かれているという Bruner & Tagiuri(1954)によって提起された暗黙の性格理論(implicit personality theory)に基づき顔の相貌的特徴認知から性格特性の推測の機制を解明する多くの研究が行われた(諸井，1995 など)。さらに，現在では，認知心理学を中心に顔認知を支える機制を明らかにする研究が幅広く取り組まれている(吉川・益谷・中村，1993 参照)。また，「顔」への学問的関心は，「日本顔学会」への創設にまで広がっている(伊藤・島田，2007 参照)。

以上に述べた一連の研究の結果，申請研究の主目的である痩身願望を支える社会的比較の役割の一端が明確になった。今後も引き続き，比較他者の問題や顔部位の中心性の意義を実証的に検討する予定である。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　４　件）

(1)諸井克英・守安可奈 2014 痩身願望と社会的比較(Ⅲ)－身体部位比較の検討－　総合文化研究所紀要(同志社女子大学), 31, 印刷中 <査読有り>

(2)諸井克英・板垣美穂 2013 化粧行動の基本的構造の探索　総合文化研究所紀要(同志社女子大学), 30, 22-29. <査読有り>

(3)守安可奈・諸井克英 2012 痩身願望と社会的比較（Ⅱ）－親密な他者との比較の影響－ 同志社女子大学生活科学, 46, 21-28. <査読有り>

(4)守安可奈・諸井克英・前原 澄・松谷歩美・小切間美保 2011　痩身願望と社会的比較(Ⅰ)－痩身理想像内在化の仲介効果－ 同志社女子大学生活科学，45，29-36.<査読有り>

〔学会発表〕（計　０　件）

〔図書〕（計　０　件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計　０　件）

名称：

発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　０　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
http://research-db.dwc.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/researchersHtml/2318/2318_Researcher.html

６．研究組織
(1)研究代表者
諸井　克英(MOROI, Katsuhide)
同志社女子大学・生活科学部・教授

研究者番号：80182286

(2)研究分担者
(　　)

研究者番号：

(3)連携研究者
(　　)

研究者番号：